

# 旭川別院だより

真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

## 秋号

2020

発行所 真宗大谷派 旭川別院

輪番 太田 法生

〒070-0030 旭川市宮下2丁目

TEL.0166-22-2409

FAX.0166-22-2411

印刷:植平印刷株式会社

旭川別院ホームページ

<http://potato9.hokkai.net/~betsuin/>

真宗大谷派旭川別院 | 検索

## 聴聞③



余市町 即信寺住職 亀谷 亨

前回まで「本願」と「念仏」について尋ねてまいりました。今回は「聴聞」について考えてみたいと思います。昔から「真宗は聴聞にきまされり」と言われてきました。それは浄土真宗が、本願のいわれを聴き、本願をもつて私たちが救わんとする阿彌陀仏の心を、念仏の響きを通して聞き開いていかんとする仏道だからです。その意味において、常に「聞くこと」の大切さが強調されてきました。しかし日ごろ聴聞をする中で、教えの確かさを感じつつも、自身の生活と仏法との距離の遠さを感じることが多いのではないでしょうか。

聴聞を重ねながら、法語や仏語がなかなか生活実感とならないという問題について、「罪重く、迷いの深い我が身であることがはつきりしないと、どれだけ聞いても聞こえてこない。仏法を聞く身に定まらない」と教えられました。その通りだと思います。それをはずしては真宗の救いも絵に描いた餅で終わってしまうのでしょうか。しかし、厄介なのは「そういうことも聞いて知っている自分がいる」ということです。確かに聴聞を重ねる中で、本願のいわれも知的には理解ができませんし、自らの罪障の深さが思い知らさ

れて涙することもあります。そういう経験を持つことは大切なことだと思えます。しかし同時に、その領きと感動をすぐ握りしめて分かった気になってしまおう自分があるのです。さらには、分かったことに執られ、それを答えとして握りしめ、その答にわが身を合わせようと演じている自分も発見します。そんな中で自らが教えのとおりに生きていくのかのように自ら錯覚してしまおうということ、私自身の問題として痛いほど感じます。

### 仏法からの新たな問いかけ

こんな話をよく聞きます。「お寺で聴聞しているときは、なるほど」と頷いても、お寺の玄関を出たら半分忘れて、家に帰ったときはすっかり忘れて「家に戻ったときはすっかり忘れてる」と。それに対して「それが私たちの愚かさだ、だから何度でも聞かせてもらえばいいんだよ」というようなやりとりです。私も身に覚えのある会話ですが、これも答えに執らわれない姿でしよう。確かに聞いても忘れることばかりで

すし、覚えたからといって助かるわけでもありません。しかし、「真宗は聴聞にきまされり」というのは忘れてしまっても聴聞さえしていればいいということではありません。それはどこまでも自分を肯定するあり方です。そこには痛みや悲しみが感じられませんか。「聞けばいいんだよ」と言っていてそこに座り込んでいる自分の姿が見えていないかぎり、本当の意味での「真宗は聴聞にきまされり」ということにはならないのでしよう。

ここに聴聞の落とし穴があるのです。罪業深き我が身であることを頭で分かることと、その事実を自覚として受け容れることは全く違うのですが、分かったつもりの中で本当に聞くべきことが聞けなくなっていくのです。ですからそのような自分が課題にならないければ、どれほどの聴聞を重ねても、仏の心と出遇うことはできないのです。また「仏法は難しいが何かひとつでも覚えて生活に役立てたい」という言葉もよく聞きます。

一見、真面目な態度ではあります。これも結局、自分の都合のモノサシで「役に立つとか立たない」とはからっているということ。こういうところに法語や仏語がなかなか生活実感として領けないという問題の根があるのではありません。しかし、悲しいかな私たちの聴聞はその域を出ないのです。そのモノサシがダメだと言われたら聴聞そのものができなくなってしまうのです。だが、それは絶望ではありません。なぜなら、そういう厄介な根性しか持ち合わせていない自分ではないこと、仏法からの新たな問いかけが聞こえ

てくるからです。「あなたが追い求め、積み重ねてきたものであなたは本当に生き生きできますか」「握っているものが逆にあなたを閉じさせ、あなたを滅ぼすものになっていませんか」という問いかけがそこに聞こえるのです。

### 終わりのない聴聞

そのことに関連して、ある先生から教えられた一文をご紹介します。

「話に分かるけど身はなかなか動きません。」そりやそうです。あたりまえです。動いたら真宗はいらんのです。動かんからこそ教えに聞くんですよ。動くようになってから教えに聞くのではないのです。動かんからこそ教えに聞くんですよ。「聞いても動きません」当たり前や。だからこそどこどこまで聞きぬくのです。それをろくろく聞くともしなくて、自分の都合にあった結論を引き出そうとする、そうでしょう。我々には終わりのないような聴聞の道があるではないか。そのことに一体何の不足やと僕は何も言いたくない。分かんない、動けません。何を言うとのや、そんなもん、初めっからお見通しや。それをまだ何とかしようというのでしよう。ただ我々は親鸞聖人の教えを聞く。そしてそれを聞いて教えのいのちにふれて、それに生きる。それしか道はないんです。

これが「真宗は聴聞にきまされり」ということだと思えます。聴聞とは握っていた自分のモノサシが壊されるという体験です。聴聞し、仏法を学んで覚えて分かって、なんとかならなければならぬと思う自分がひっくり返されて、なんともならない自身の姿に出遇い、「一生涯教えを聞き続けることに不足なし」と決着したところにすでに救いは現前しているのです。そして、聞いても聞いても仏法を忘れる続ける者をして、なお仏の心につなぎとめておこうと仏から手渡された道が念仏であることも忘れてはならないでしよう。なぜなら「聴聞とは阿彌陀仏の名を聞くことにきまされり」からで

### 法座・行事案内予定

10月	11月	12月	1月
1日 午後7時 公開学習会 7日 午後1時 群萌の会 皇山 明光師 列座 8日 午後1時 マヤの会 列座 13日 午後1時 初心の集い 輪番 列座 14日 午後1時30分 あゆみ会 列座 16日 午後7時 同朋の集い 列座 17日 午後1時 壮年の集い 列座 18日 午後1時 婦人会 列座	1日~5日【旭川別院報恩講】 (2日・3日) 禿 覚英師 枝幸町 順信寺住職 (4日・5日) 高瀬 法輪師 北広島市 無礙光寺住職 7日 午後1時 群萌の会 列座 8日 午後1時 マヤの会 列座 13日 午後1時 初心の集い 輪番 列座 16日 午後1時 同朋の集い 列座 18日 午後1時 婦人会 列座 21日 午後7時 壮年の集い 列座 随時 午後1時30分 あゆみ会 列座 ※御正忌の集いは本年はありません。	1日 午後7時 公開学習会 7日 午前11時 群萌の会 皇山 明光師 列座 8日 午前11時 マヤの会 報恩講 講師未定 13日 午後1時 初心の集い 輪番 列座 16日 午後1時 同朋の集い 報恩講 18日 午後1時 婦人会 講師未定 列座 19日 午後7時 壮年の集い 報恩講 列座 31日 午後11時40分 初鐘 あゆみ会 列座 随時 午後1時30分 あゆみ会 列座	1日 午前0時 修正会 午後1時 初心の集い 輪番 列座 16日 午後1時 同朋の集い 列座 17日(未定) 午前11時 群萌の会初顔合わせ会 列座 18日(未定) 午前10時 婦人会(かるた大会) 列座 中旬(未定) 旭川別院門徒新年会 列座 壮年の集い初顔合わせ会 随時 午後1時30分 あゆみ会 列座



### 輪番感話 ③

本年は新型コロナウイルスによって、世界中が様々な影響を受け、地元旭川においても深刻な経済的打撃を受けています。また旭川別院でも、非常事態宣言の発表とともに、月忌のお参りを休んで頂いたり、通夜・葬儀・法要の仏事形式もすっきり変わりました。

少しづつ以前の日常に戻りつつありますが、このウィルス感染症によって問われている社会的課題にあらためて受け止めていく必要があるのではないのでしょうか。

石川県の妙好人、浅田正作さんは「世の中が便利になって 一番困っ

ているのは 実は人間なんです。」という言葉があります。この未知なるウィルスも人間が経済至上主義の発展による、地球環境の変化が原因であることが一部の専門家の方が指摘しています。言うなれば自然からのレッド・カードなのかもしれません。

また近年のゲリラ豪雨やハリケーン台風も地球温暖化による警笛とも言われています。

先日、自坊でお寺の婦人会の方々による、清掃奉仕で、草取りをされていた方から、「水害のあった九州の豪雨災害は大変だね。それから見た

らここはたいした災害もなく、喜ばなければならぬね。」と何気なく言われました。しかし「それはちよつと違う。あなたのエゴですね」と言えずに、頷いてしまいました。

人間の本质は、いつもエゴ中心で、自分さえ良ければと、自分をたてて、正義を振りかざせば、他を批判し、攻撃的な私になっていきます。

真宗の教えに聞くことは、人間であることの悲しみに立つて、ただ今を丁寧に、そして人間一人ひとりを尊敬する道を、尋ねていく歩みとなります。

(太田 法生)

この度、九州大谷短期大学講師 中島航先生をお迎えし「老と病」の講題でお話頂きました。

先生は古い、病と必ずおとずれる福祉の現場の経験から、思い通りならない現実の中で改めて自分の人生はなんであるかが問われる。誰も変わることはない人生は、本来尊い命であると同時に、我執に縛られ自ら孤独である事を知らされる。念仏の教えは、そのように避けて通ることができない私に「私でよかつたといえる人になれ」と仏さまの呼び声が聞こえるとき、決して一人ではない人生を賜ると、多くの例を引用しお話されました。皆さま熱心に聴講頂きました。又、新型コロナウイルス感染予防にご協力いただき、ありがとうございました。

合掌

## 公開講演会報告

九月四日午後一時半 本堂 聴講者四十名程



# 真宗大谷派 旭川別院 報恩講

2020年 11月1日～5日



### 報恩講講師

11月4日・大遠夜 / 5日・晨朝・満日中

11月2日・遠夜 / 3日・遠夜



たかせ ほうりん 高瀬 法輪 師 (北広島市 無礙光寺前住職)



かむろ かくえい 禿 覚英 師 (枝幸町 順信寺住職)

謹啓 秋晴の候、御門徒各位には益々ご清祥のことと存じ上げます。

さて、旭川別院宗祖聖人報恩講は、新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない為、やむなく規模を縮小いたし、お斉等の食事の接待を致さないこととなりました。

例年報恩講実行委員会のお手伝いとしてご尽力を賜って頂きましたが、本年は報恩講にご参詣下さいまして、次年度のお手伝いには、再度宜しくお願い申し上げます。

合掌

旭川別院輪番 太田 法生  
旭川別院報恩講 実行委員長 佐古 光臣

6日	5日	4日	3日	2日	1日	日	法要
金	木	水	火	月	日		晨朝
7時(院内)	7時勤行(法話あり)	7時(院内)	7時(院内)	7時(院内)			日中
	10時勤行(法話あり)						遠夜
		14時勤行(法話あり)	13時半勤行(法話あり)	14時勤行(法話あり)	14時(院内)		御伝鈔
			15時半				

※(院内)は、別院の輪番・列座だけのお勤めです。法話はありません。

報恩講日程(予定)

# 真宗大谷派 旭川別院

## 歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀式が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人のお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいたご葬儀です。どうぞご利用下さい。

葬儀への提案



真宗本来の葬儀壇

大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされたい方は是非ご利用ください。



### 使用料 (祭壇・会場費込)

- 各広間 …………… 100,000円 (税込)
- 大谷ホール …… 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409

## 秋季彼岸会法要

九月二十一日～二十三日 午後一時

講師 中野 誠二 師  
講題 「とももの同朋」

親鸞聖人のお手紙より「とももの同朋にもねんごろのころ…」を引用されました。特に同朋は仏の教えを聞きあう仲間であると同時に、根本的に罪み深い自らの心であることが知らされる大切な言葉です。この度の新型コロナウイルスの社会的状況に於いて、人と人とのつながり・思いやり・尊重の分断が顕われたことでした。改めて、先生は聖人のお手紙を通して人間の闇の部分を示される中で、忘れてはならない、人は根の如く必ず絡み合い、支え合って生きていく共なる同朋であることをお話されました。

合掌



# 法 仏 あ くれ こ れ

## 頑魯の者

「予が如き頑魯の者」、これは平安時代の僧・源信僧都が著した『往生要集』という書物の言葉です。源信僧都は、親鸞聖人や法然上人(親鸞聖人の先生)も修学した比叡山で学び、お念仏の教えに出遇った方であり、『正信偈』には「源信広開一代教」「源信、広く一代

の教を開きて」「真宗聖典」二〇七頁)と、その名が記されています。『往生要集』は親鸞聖人や法然上人が大切にされた書物です。ちなみに、法然上人は『往生要集』の講義で師匠に意見し、木まくらを投げられたと伝えられています。そこには、地獄などの有様や阿弥陀仏の浄土の功德が具に記され、往生の業としてのお念仏が明らかにされています。

『往生要集』の冒頭にある「頑魯」とは、「かたくな」で「おろか」ということであり、源信僧都は自身にその「頑魯」の姿を確かめています。さらに『往生要集』に尋ねると、「予が如き頑魯の者」とすなわち「私源信のような頑魯の者」とは、經典に説かれる様々な往生の修行をなしていくことが出来ない者である、ということが了解されます。それは、「頑魯の者」においては修行が修行

(水上 量順)



## 初鐘並びに、修正会、お蕎麦振る舞いのご案内予定

日程

- お蕎麦振る舞い(無料) 限定六十食  
令和二年十二月三十一日 午後十時半頃から
  - 初鐘  
令和二年十二月三十一日 午後十二時四十分より開始
  - 修正会  
令和三年一月一日 午前零時より開始
- 場所 大谷ホール一階 ・初鐘 鐘楼堂前 ・修正会 本堂

## お年始参りのご案内

期間 一月六日～三十一日まで

- ご案内の日時につきましては、事前にハガキにてご連絡させて頂きます。尚、この年始参り中の月忌参りはお休みとさせて頂きます。
- 一月にご法事等を予定のご門徒さんは、十二月二十日迄に別院にご連絡のうえ、調整願います。

## 婦人会のお知らせ

令和三年一月十八日午前十時予定の婦人会カルタ大会は、新型コロナウイルスの感染状況次第では、中止・変更の場合があります。十二月十八日の例会で決めます。決まりましたら別院ロビーに掲示致します。

## 別院子ども会

旭川別院子ども会も新型コロナウイルスの影響で中止が続いていましたが、この度10月に開催する事になりました。過度な密集を避け、消毒、マスク着用など、万全な体制で行う予定です。お寺にまた子供達の元気な笑い声、笑顔が戻ることをスタッフ一同楽しみにしております。是非ご参加下さい。興味のある方は旭川別院までお問い合わせ下さい。

10月4日(土) 10時～お勤め、レク、等  
13時～昼食後解散予定



# 幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

**\*旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り\***

夏休みが終わり、二学期が始まりました。春に植えた野菜やお花がぐんぐん育ちました。葉、花、実が大きく育つ様子をじっくりと観察をして、収穫した野菜をいただきました。コロナウイルス感染防止のため、春に行う事が出来なかった運動会を、九月十二日(土)にクラス別に行いました。爽やかなお天気のもとで、毎日の保育の中で経験している運動遊びを、おうちの方に見ていただく事が出来ました。

これからの季節、虫の声、植物の色や匂い、肌で感じる気温、美味しい食べ物など、五感を使って夏から秋への季節の移り変わりを感じて欲しいと思っております。

## 園庭遊び



小さなお友達と一緒にままごと



草やお花をすりつぶし、お水に混ぜて色水遊び。お茶会が始まりました。



強風の後、園庭に宝物が沢山落ちていました。

## 水遊び



水に触れるだけでなく、絵具や色水遊びも楽しみました。

## 野菜の収穫

収穫したミニトマト(ピザ作り)(4歳ぽん組)



沢山収穫したミニトマト。トマトが苦手だった子も、「甘くて美味しい!」と育てて食べる喜びを感じました。ピザ(餃子の皮)のトッピングは、トマトの他にチーズ、ソーセージ、ピーマン、コーン、玉ねぎ、ケチャップです。

山盛りに乗せたから、こぼれちゃうでも美味しい~!!!

## 枝豆の収穫(3歳ぽん組)



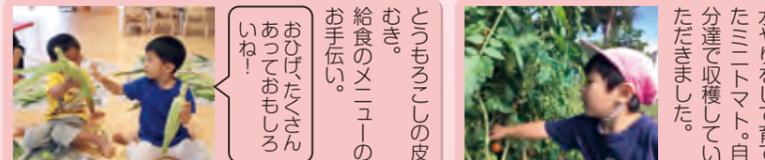
小さなお豆がだんだん太っていく様子を観察し、収穫しました。そばにいた5歳児きりん組の子ども達が、「手伝うよ!」と枝の片付けまで汗を流しながら手伝ってくれました。「手伝ってもらって嬉しかった!お兄さんお姉さんにも枝豆をプレゼントしたい!」と、年中・年長組さんに茹で上がった枝豆をおすそ分けしました。

## じゃがいもの収穫(5歳きりん組)



種芋を植えてから、葉、茎、つぼみ、花の成長、赤ちゃん芋が出来てきている様子を観察しました。「茹でたら良い匂いがするね!」とおいもの匂いを感じ、美味しいいただきました。職員室に、「ふわふわで美味しいおいもです!」とおすそわけに来てくれました。

## ミニトマトの収穫(2歳きりん組)



苗を植え、皆で水やりをして育てたミニトマト。自分で収穫していただきました。

とつものこの皮むき。給食のメニューのお手伝い。

おひげたくさんあっておもしろいね!



合掌

## ご門徒の声

門徒

田中祥子

## 私とお寺

私とお寺との関係は祖母の影響が大きいです。祖母は富山県にあるお寺出身です。品のあるきれいな人で子供ながらも自慢の人でした。物心ついた頃には朝から晩まで寝ている時と食事以外はリズムをつけてお念仏申されておりました。正にお念仏の中の生活といっても過言ではないと思います。そして親鸞聖人のことを「親さま」とか「御開山」と申しておりました。

家から徒歩五分ぐらいの所にお寺(お西さん)がありました。よくお詣りにいく祖母のお供をしていました。小学一、二年生だったと思います。おやつがあるわけでもなく、楽しい事があるでもなく、ただお供して行くだけでうれしかったのでしよう。それが私とお寺の始まりではないかと思えます。

最近年を重ねると色々考えさせられます。生まれたからには必ず死がやってきます。私は死ぬことをいやだとか怖いとか淋しいとは思いません。親鸞聖人は死のことを「娑婆の縁つきごとおっしゃっています。娑婆の縁つきればなごりはつきませんが死なせて頂きますと申されています。だとすると私はいつまでの縁を頂いて生きていくのか、今夜かもしれない明日かもしれない。十年は無理でしょうが、例え十年だとしてもすぐです。蓮如上人は仏法のことには急げ急げとおっしゃっています。今からでは間に合わないかも知れませんが、たった一回きりの御縁です。縁つくるまで大事にしつかりと生きたいと思えます。祖母のようにお念仏の中の生活は私には無理ですが、毎日の生活の中で、朝・夕のお内仏でのお勤め、そしてお念仏を頂きながら、これからも体と相談しながら一足でも多くお寺に足を運べれば、この上ない幸いです。

## うしろんげ

九月の法語カレンダーに「自分のあり方に痛みを感じるときに人の痛みが心が開かれる」という法語が載っていた。

親鸞の仏教は、還愚の仏教などと言われ、自分の愚かさや気づきなさいという話をよく聞くが、この自分が愚かであるという事は自分からは領けないものではないか。「そうは言っても、自分もまだまだ捨てたものではない」とか「あの人よりはましだろう」という思いが抜けず、私が愚かでしたという心境にまではなかなか落ち着けないように思う。

「邪見憍慢悪衆生」とは、どこかの悪い人ではなく、どこまでも自分の理性で甘い評価を下す私達自身の事を言うのではないだろうか。「自分のあり方に痛みを感じる」時とは、本当の意味で自分が仏法を聞いたときではなからうかと最近思います。

(安居)